

発表1：救急車のフローチャートをつくろう

函館西高校 チームA

発表者：3年1組 前田 温輝



企画の動機（探究活動のきっかけ）

救急救命士を目指していて、救急搬送が増えている現在、
救急車の不適切な利用が増えていると知ったから

- ・ 一回の出動にかかる費用は、約4万5000円
（地域によって多少異なる）
- ・ 救急車到着時間 20年前 約6分
 現 在 約9分

救急車の不適切な利用とは

不適切な利用例

近年、救急車の利用が増大

不適切な利用が問題視

新聞紙で指先を切り救急要請。
新聞紙を開いた際、右手の中指を切ったため救急要請をした。
救急救命士が負傷部分を確認すると右手の中指に5 mmほどの切り傷を確認したが、出血は止まっていた。



適切な利用例

駅で男性が突然倒れた。
駅構内の人々が男性が急に倒れるのを目撃した。倒れた人のところに行くと、心肺停止の状態だった。
すぐさま心臓マッサージを行い、救急車を要請。
駅に設置されていたAEDを用いて電気ショックを実施した。



救急車の不適切な利用を減らすにはどうしたらよいか

救急車の利用する尺度は、人それぞれである



それによって適切ではない利用が増大している



ガイドラインをフローチャートを利用することで**基準が統一**でき、
救急車の不適切な利用の減少へつながるのでは？

目指しているゴール

救急車の不適切な利用の抑制



啓発活動が必要

- 1) 救急車のガイドラインのフローチャートの普及
- 2) 幼少期からの救急車を利用する際の教室の開催

啓発活動

今自分が行える活動

救急車のガイドラインのフローチャート普及

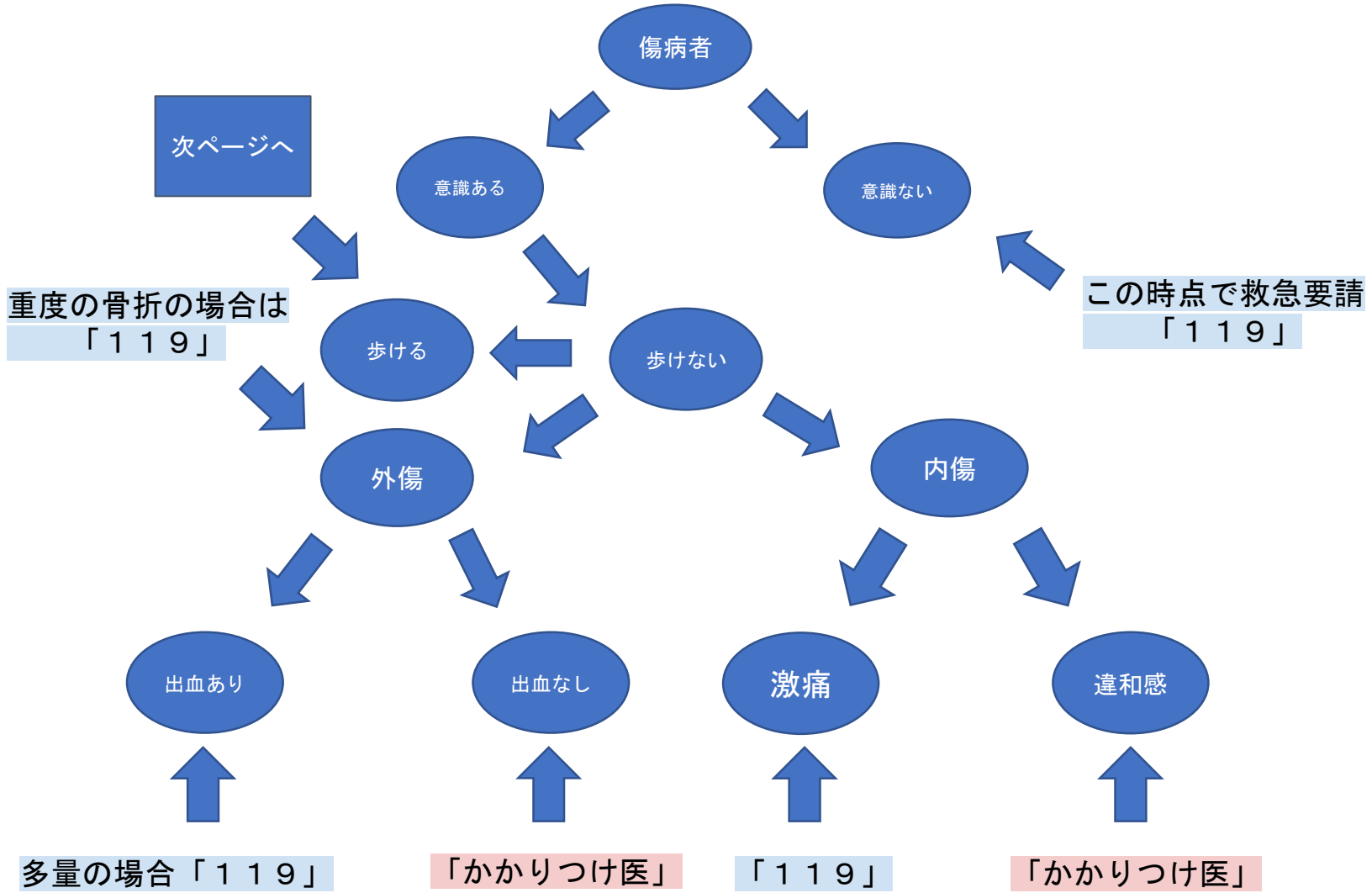


- 例)
- ・ 各家庭の壁に貼り付けられるように紙で配布
 - ・ ホームページに掲載



救急車の適切な利用が増えるのでは？





傷病者

次ページへ

意識ある

意識ない

重度の骨折の場合は「119」

歩ける

歩けない

この時点で救急要請「119」

外傷

内傷

出血あり

出血なし

激痛

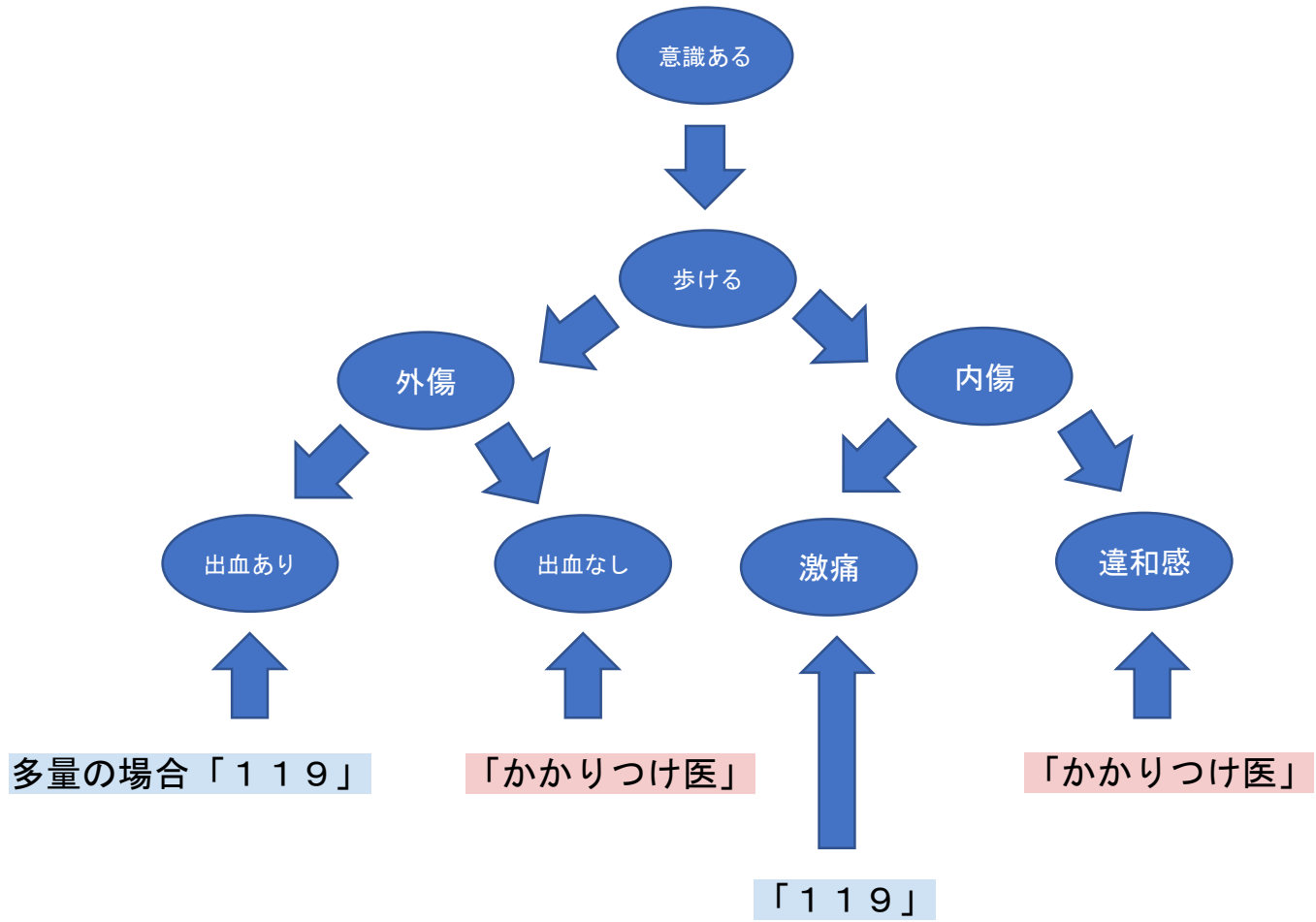
違和感

多量の場合「119」

「かかりつけ医」

「119」

「かかりつけ医」



啓発活動

これから先行える活動

幼少期からの救急車を利用する際の教室を開催
(小学校・幼稚園などの小さい子どもたちに授業)



小さいころから救急車を利用する基準を理解してもらう



将来、救急車の適切な利用が増えるのでは？



医師の方に話を伺った結果

帝京大学病院の医師の方に質問しました。

救急車の不適切な利用について

・不適切な利用が増えていることに関しては、救急車の有料化という案が出ていると仰っていました。しかし、有料化することで**問題**が生じると教えてくれました。



問題として挙げられることは

・利用者は、「お金を払えば来てもらえるんだろ」ということになってしまう恐れがある。このように利用者に主導権が行ってしまうということと話していただきました。

ほかに救急医療の問題は何かありますか

・不適切な利用もその一つなのですが、一人暮らしの高齢者の方々が緊急時の場合どうするべきかという問題があると教えてくださりました。

一人暮らしの高齢者が急病でなくなる割合は、**増加傾向**にある。



その対策として、協力員活用型、事業者等との協定締結型、ネットワーク構築型など上げられる。

まとめ

救急医療の問題は、救急車の不適切な利用だけでなく、
高齢者の方々の問題、有料化の問題など
まだまだ問題が山積みであるので、
今後活動して行きたいと思いました。



グループワークで話し合ってもらいたいこと

- ・ ガイドラインのフローチャートへの意見や指摘は？
- ・ どうすれば函館市内に全戸配布できるか？
- ・ 高齢者が多い西部地区で啓発活動をするために
どうすればよいか？